（第３種郵
10月16日　№836
2006年（平成18年）
週刊　月曜発行
発行人　小田　太一
平成元年９月22日　第３種郵便物認可
購読料　年間 24,000円（前納）
１部　520円

週刊 循環経済新聞
The Recycling Economy Times

三功

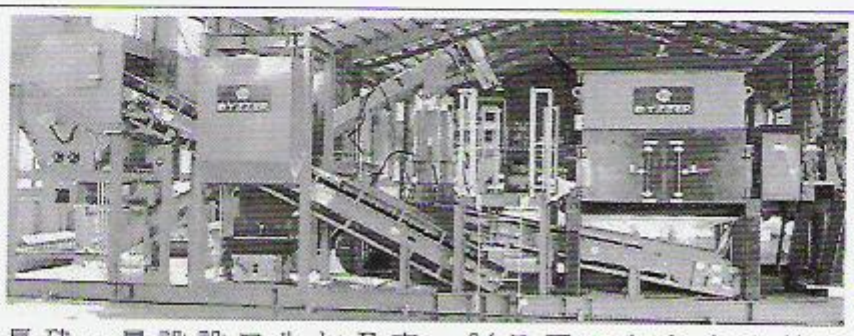
第2Rセンター新設

事業系一廃の90%以上を資源化へ

一廃・産廃の収運・中間処理を手がける三功（三重県津市、片野功之輔社長、☎059・255・5177）はこのほど、ビニールと紙ごみのRPF化設備を含む第二リサイクルセンターを新設した。今後はスーパーマーケットなどから回収した事業系一廃ごみの再生利用率90%以上を目指す。

新施設は980平方㍍の建屋内にRPF化設備、空き缶プレス機、PETボトル粉砕機、発泡スチロール減容機などを設置した。RPF化設備の処理能力は日量3㌧で、ビニール・紙ごみのみを粗破砕し、直径1㌢強、長さ2―3㌢のRPFに加工し、製紙会社などへ販売する。

スーパーマーケットやショッピングセンター、飲料ベンダーなどから回収したビン、缶、PETボトルが混合したごみ袋は破袋機に通した後、コンベア上で手選別し、各装置へ。缶はスチール、アルミに分けて圧縮し、PETボトルはフレーク状に加工。発泡スチロールは溶融固化する。



新設したRPF製造設備

同社は産廃・一廃の収集運搬、食品残さのたい肥化事業などを手がけており、ショッピングセンターのジャスコやマックスバリュ、ユニーなどから出る一般廃棄物の収集も行っている。従来、事業系一廃は食品残さをたい肥化するほか缶や発泡スチロールなど一部のみ自社で一次加工し、資源化可能な品目のほかは焼却施設へ搬入していた。

このたびのRPF製造施設の整備で、破袋後のビニールなども再生利用できるようになり、排出事業所の3R対策に対応できる体制を整えている。